

台灣原住民族的音樂與文化 國際學術研討會

「台湾原住民族の音楽と文化」国際学術シンポジウム
International Symposium on Taiwan's Indigenous Peoples' Music and Cultures

文・圖 | 早坂文吉 (天理大學附屬天理參考館學藝員)

漢語翻譯 | 廖彥琦

2012年4月14、15日に天理参考館並びに天理大学において「台湾原住民族の音楽と文化」と題した国際学術シンポジウムが開催された。本シンポジウムは下記の主旨のもとに開かれた。

日本では初のテーマとなる国際学術シンポジウム

世界の諸民族にはそれぞれ独自の歌曲や歌舞がある。台湾原住民族も独自の優れた歌曲と歌舞を有し、民族の生活規範や規律、神話伝説、さらには喜怒哀楽を歌曲や歌舞で伝えてきた。このような台湾原住民族音楽が生まれる背景について孫大川氏は、原住民族の村



2012年4月14-15日在天理参考館與天理大學舉辦了以「台灣原住民族的音樂與文化」為主題的國際學術研討會。本研討會舉辦主旨如下。

在日本首次登場的國際學術研討會

世界上諸多民族各有其獨特的歌曲與歌舞。台灣原住民族也有其獨具特色的優美歌曲與歌舞，且民族的生活規範、規律、神話傳説，甚或喜怒哀樂都是藉由歌曲與歌舞等傳承下來。有關台灣原住民族音樂產生的背景，孫大川認為在原住民族的部落，歌在生活、祭典等當中傳唱，它就是與生活密不可



林清財教授以「用歌來書寫：台灣原住民族的歌謠傳統」為題，進行專題演講。

首次公開有關平埔族文物的資料介紹。



では歌が生活や祭りのなかで謡われ、歌は生活に密着した原住民文学そのものだという。今日ではさらに平埔族の民族音楽にも光が当てられている。本シンポジウムはこうした「台湾原住民族の音楽と文化」をテーマにした、日本で最初の国際シンポジウムである。

主催は天理大学、天理大学附属天理参考館、国立台東大学であり、財団法人交流協会、行政院原住民族委員会、台北駐大阪経済文化办事处、天理台湾学会、天理大学中国文化研究会の後援のもとに開催された。

会場を感動で包んだ台湾原住民族の演奏と歌唱

4月14日の初日は午前10時より岩井孝雄（天理参考館館長）、梁忠銘（国立台東大学教授）の挨拶の後、原住民族音楽研究の第一人者である林清財（国立台東大学）による「歌で書く—台湾原住民の歌謠伝統について—」と題した基調講演が行われた。

のち、今年1月に発刊された天理大学附属天

理大学附属天理参考館、国立台東大学、並在財団法人交流協会、行政院原住民族委員会、台北駐大阪経済文化办事处、天理台湾学会、天理大学中国文化研究会等單位的協助下舉行。

分的原住民文學。甚至平埔族的民族音樂現在也開始受人矚目。本研討會在日本是第一次以「台灣原住民族的音樂與文化」做為主題的國際研討會。

感動全場的台灣原住民族演奏與歌唱

4月14日會議第一天，上午10點在岩井孝雄（天理參考館館長）、梁忠銘（國立台東大學教授）致詞後，從事原住民族音樂研究首屈一指者林清財（國立台東大學）以「用歌來書寫：台灣原住民的歌謠傳統」為題，進行專題



卑南族的歌謠演唱。



排灣族的樂器演奏。(圖片提供：下村作次郎)

理參考館編『台灣平埔族、生活文化の記憶』の紹介と、初公開も含む平埔族に関する文物の資料紹介があり、午後からは台湾原住民族研究者による口頭発表が行われた。これらは天理参考館地下1階研修室で行われた。用意された椅子が埋まるほどの盛況で参加者は約100名。日本においても台湾原住民族に関する注目の高さを伺い知ることができた。午後3時からは会場を天理参考館1階のエントランスホールに移した。「台湾原住民族音楽の演奏」と題し、日本ではなかなか見ることができないパイワン族の少妮瑤・久分勒分による縦双管笛・鼻笛演奏、プユマ族の呉花枝、林志興、孫優女、孫大山による歌謡が行われた。各演奏後には大きな拍手が起り、アンコールの声がかかるほど会場は感動で包まれた。

演講。

其後、有由天理大學附屬天理參考館所編並於今年1月出版的《台灣平埔族、生活文化的記憶》以及包括首次公開有關平埔族文物資料介紹。下午則進行台灣原住民族研究者口頭發表。這些是在天理參考館地下1樓的研修室舉行。從場內坐位滿席的盛況來看，參加者約100名。由此可推斷台灣原住民族在日本備受注目的程度。下午3點開始，會場移至天理參考館1樓的入口大廳。以「台灣原住民族音樂的演奏」為題，表演在日本不容易見到的原住民族樂器演奏與歌謠。分別有排灣族的少妮瑤・久分勒分的縱雙管笛、鼻笛演奏以及卑南族吳花枝、林志興、孫優女、孫大山的歌謠演唱。此場演出獲得熱烈掌聲、安可聲不斷，會場中充滿了感動。

原住民族研究と文化の伝承・復興

2日目の15日は、会場を天理大学第一会議室に移し、先日に引き続き台湾原住民族に関する研究発表が行われた。テーマは文化、音楽、文学、地理、教育など多岐に渡り、この2日間で日本、台湾から5名ずつ、計10本の発表が行われた。このシンポジウムの総括講演は孫大川（行政院原住民族委员会主任委員）による「台湾原住民族の音楽と文化」であった。氏は講演の中で「台湾は近年、政府による大きな協力の下で、台湾の原住民族の音楽は国際的にもきわめて有名となっており、国際的な学術面においても、台湾の原住民族文化を研究するブームが拡大してきており、これは台湾の原住民族文化の伝承と復興にプラスとなる」と述べた。

この国際シンポジウムを通して「台湾原住民族の音楽と文化」の奥深さ、素晴らしさを改めて体感することができた。そして、日台双方から共同して台湾原住民族の文化について研究する新たな一歩を踏み出すことができたと言える。

原住民族研究與文化的傳承、復振

4月15日會議第二天，會場改至天理大學第一會議室，進行接續前一天與台灣原住民族有關的研究發表。主題涉及文化、音樂、文學、地理、教育等多方面。兩天會議來自日本與台灣的發表者各5名，共計10篇論文。本次研討會的總括演講則由孫大川（行政院原住民族委員會主委）講述「台灣原住民族的音樂與文化」。孫主委提到台灣近年來在政府大力的協助下，台灣原住民族的音樂在國際上也變得非常有名，在國際性學術研究方面，研究台灣原住民族文化的熱潮也逐漸擴大，此一發展對於台灣原住民族文化的傳承與復振帶來加分作用。

藉由此次國際研討會得以重新感受「台灣原住民族的音樂與文化」的深奧與美妙。也能夠說是日台雙方共同在研究台灣原住民族文化上踏出新的第一步吧！◆

- *台湾の少数民族先住民族の公式呼称は「原住民族」である。「原住民族」という名称は1994年に憲法に記され、1997年に「原住民族」に修正された。シンポジウム並びに本文はこの呼称に従った。
- *台湾少数民族先住民族の正式名稱是「原住民族」。「原住民」一詞在1994年寫入憲法當中，1997年修正為「原住民族」。研討會與本文皆遵從此一名稱。



與會者於會後合影留念。（圖片提供：下村作次郎）